

平成17年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 アスベスト含有建材の解体等に伴うアスベストの飛散並びにその防止技術の検証

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>○建材破砕時に直接大気中に飛散するアスベストの量だけでなく、散水した水と共に落下するアスベストも計測して、総量としてアスベスト繊維の発生量を抑えるという観点からも検討して頂ければありがたい。</p>	<p>○散水することにより水系に移行するアスベスト量の把握についても検討してまいります。</p>
<p>○基礎実験のデータも重要であるが、現場データがより重要である。現場データは立地条件、気象条件など多くの因子が絡むので、普遍的な判断がつきにくい。現場の数をどれだけ確保できるかが鍵となるので、計画的にデータを取れるスキームを考えて実施してほしい。</p>	<p>○基礎実験において散水によるアスベストの飛散防止効果を検証した後、実際の解体現場でその防止効果を確認するための現地調査を予定しておりますので、現地調査の実施にあたり、その実施方法等について検討してまいります。</p>
<p>○研究機関の実験実施であるからには、実験に関わる特性の明確化は不可欠である。広義の粒子状物質として粒径特性の把握、エミッションファクターとして数量的把握などは高い精度ではなくとも押さえる必要がある。</p>	<p>○飛散量測定の対象となるアスベストは長さ5 μm以上、長さとの幅の比が3:1以上で、かつ幅が3 μm未満の繊維状粒子です。また、エミッションファクターとしての数量的把握については、その手法を含め今後さらに検討してまいりたいと考えます。</p>